

2月15日 - 国際小児がんの日についての要約

国際小児がんの日とは？

国際小児がんの日は、小児・思春期がん患者、小児がん経験者、そしてその家族のために、小児がんの意識を高め、支援を表明する世界共同キャンペーンです。その日は、小児がん患者と経験者に影響を与えている課題やチャレンジを、一層評価し深く理解することを促進するのです。その日は、全ての小児がん患者が、どこにいても、より公平でより良い治療とケアが受けられることの必要性にスポットライトを当てることにもなるのです。

誰が国際小児がんの日を支えるのか？

この年次行事は、5大陸、90ヶ国における草の根及び国民的な親の会からなる177団体のネットワークを有するチャイルドフード・キャンサー・インターナショナル（かつての、国際小児がん親の会連盟）によって創設されました。

国際小児がんの日は、チャイルドフード・キャンサー・インターナショナルの中核となる信念、つまり、あらゆる小児がん患者は、出生国、人種、経済状況や社会階層に関係なく、最高の医療及び精神的なケアを受ける権利がある、という信念に基づいています。また、それは、小児がんによる死は、タイムリーで正確な診断、及び適切な医療とケア、そして安価で欠かすことのできない薬品の利用可能性によって回避できる、という前提に根差しています。

国際小児がんの日は、2002年に開始しました。その後、毎年開催される国際小児がんの日は、世界的なネットワークと、SIOP（国際小児がん学会；会員数1000名超）、SIOPヨーロッパ、UICC（国際対がん連合：会員数155ヶ国、770名）、セント・ジュード小児研究病院、そしてIARC（国際がん研究機関）等の主要機関の支援を生み出しました。

あなた、そしてあなたの団体にとって、なぜ、国際小児がんの日のために支援と連帯を示すことが重要なのか？

子どもたちはあらゆるコミュニティや国の宝です。彼らが、精一杯の、そして十分な潜在力を引き出せるまでに生活ができることを確固とすることは、私たちの責任です。

悲しいことに、小児がんは子どもたちから幼少期や青春期を奪いとってしまうのです。小児がんは彼等の生存を脅かしているのです。がんと診断されることによって、子どもたち、そしてその家族の“普通の生活”という感覚のすべてが閉ざされてしまうのです。しかしながら、小児がんが、家族、きょうだい及び両親に与える影響以上に辛いことは、子どもたち自身への影響です。純真で無邪気な頃に、小児がん患者は、辛くてもそうしなければならない状況、つまり、友だちや家族から長い時間、引き離されることに向き合うこととなります。たいいていの場合、小児がんの行程は、大変な苦痛とストレスを伴うのです。従って、私たちは、小児がん患者・家族は、小児がんの闘病生活を決して一人で背負ってはならない、と信じるのです。

今日、私たちは皆さんに、小児がん患者、小児がん経験者、そしてその家族のために“立ち上がろう”、“声を出そう”の運動を盛り上げていただきたいと思います。私たちのチャレンジは、“今、行動すること”です、なぜなら、小児・思春期がん患者にとって、時には今日が彼らのすべてであることを私たち全員が知っているからです。

違いを作ることは一人でもできますが、一緒にアクションをおこせば、変化を創造できるのです。

皆さん一緒に、小児・思春期がん患者、小児がん経験者、そしてその家族の生活が向上するよう支援していきましょう。